



【学校教育目標】社会や人との関わりの中で 真の逞しさを身につけた 児童生徒の育成

令和 5 年 10 月 2 日
京都市立東山泉小中学校
校長 岩田 智典

泉だより No.7



東山泉に込められた願い「夢創(むそう)」

東山泉では開校以来、3年生から9年生の「総合的な学習の時間」を「ゆめづくり」「夢創」と呼び、キャリア教育の視点から、子ども自身の将来の夢の実現を図っています。一例を紹介すると3年生は「地域探検」4年生は「地域の自然や環境」5年生は「地域で働く方の思い」6年生では「私たちのまちの創造のために取り組む人々」7年生では「京都の魅力づくりに励む人々」8年生では「実社会で働く自己の将来像」9年生では「世界の中の日本、未来の創造のための自分の思いや願い」など、段階を経て学んでいきます。このカリキュラムには、校名にもなった「泉のごとく湧き出でる人材を育てる」という願いが込められています。



9月29日(金)2ndステージ夢創発表会が行われました。これは8年9年、7年6年がペアになりポスターセッション形式でお互いの学習の成果を発表します。開校時から続けているこの取組にも時代とともに変化があり、探究型の学習(仮説を立て情報をもとに根拠を示し、自分の研究をまとめ、表現する方法を工夫する)が主流となり、情報収集や発表にはICTを用いた発表に変わってきました。今年度は「どうしたら食品ロスの低下につながるのか」「環境に配慮した梱包方法」「災害が起こったとき、被害を少なくするにはどうしたらいいか」「京都市の教育が世界一になるのか」など非常に興味深い発表があり、友達の発表を聞いたり、先輩後輩の発表を聞いたりすることで自分自身の視野が広がったのではないのでしょうか。

最高学年の9年生はこの後、発表会の自信と反省を生かして、自身の「卒業論文」を書上げ、そしてその内容を自身の言葉で「夢を語る」ことで、義務教育のキャリア教育を修了します。

東山泉の「校是」(こうぜ:学校として大切にしていること)の一つに「立志」があります。各教科で学んだことの集大成として「どのように社会と関わり、よりよい人生を送るか」という資質能力を「ゆめづくり」「夢創」で身に付けていって欲しいと思います。

